

温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

-森林生物多様性復元地域-

第2回管理委員会

開催日時 及び場所	平成26年10月9日(木) 14:00～ 中津川市健康福祉会館 多目的ホール
管理委員	<p>青山 節児 (中津川市長)</p> <p>池田 聡寿 (池田木材(株) 代表取締役社長)</p> <p>植木 達人 (信州大学農学部 教授)</p> <p>大住 克博 (鳥取大学農学部付属フィールドサイエンスセンター 教授)</p> <p>大浦 由美 (和歌山大学観光学部 准教授)</p> <p>岡野 哲郎 (信州大学農学部 教授)</p> <p>下嶋 聖 (東京農業大学短期大学部 助教)</p> <p>田上 正男 (上松町長)</p> <p>早川 正人 (付知町まちづくり協議会 会長)</p> <p>増田 今雄 (信濃毎日新聞社 編集委員)</p> <p>山本 進一 (名古屋大学 名誉教授)</p> <p>横山 隆一 ((公財)日本自然保護協会 参事)</p> <p>管理委員12名</p> <p style="text-align: right;">五十音順</p>
議事内容	<p>(1)管理基本計画の検討について</p> <p>(2)愛称の公表について</p> <p>(3)その他</p>
概要	<p>○ 管理基本計画は、地域管理経営計画の別冊として局長が作成し、管理委員会での検討を受けて作成したものであることを明記することとし、今年度は管理基本計画策定のための途中経過報告として整理することについて了解が得られた。また、本取組地域の愛称については「木曾悠久の森」として公表することについて了解が得られた。</p> <p>○ 委員からの主な意見は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体策を考えるためには、その基盤となる理念や大きな方向性の共有をもっと深める必要があるため、十分な議論の時間の確保をお願いする。 ・管理基本計画は5年間の計画であるが、その前提として、最初の20年間で何を獲得し、50年後にどういう状況をつくって100年後にイメージする環境にしていく、そういう道筋を作らなければいけない。 ・現在大学では林学がなくなってきて、現場のことが分からなくなっているのので、是非、学生を対象とした現地見学会を開催してもらいたい。 ・大学と研究機関と局で機構のようなものを立ち上げて、理学部や一般の人を対象とした現地見学会を企画していくことも1つの方法と考える。 ・この風土をしっかりと検証して、その生活、地に根付くものについて記述してもらいたい。物造りの日本は世界でも注目されてきているが、自然に対する対応は遅れているので、温帯性針葉樹林だからこういう特徴があるんだということが盛り込められればよい。 ・この地域に育った天然ヒノキの将来について検討する夢を持った計画となるようにしたい、このすばらしい森林資源を引き継いでいく、将来に希望を持てる市町村のあり方を考える議論になればよい。 ・木曾ヒノキは文化財として価値の高い木がある箇所が限られているので、きちんと説明をして少しずつでも出していけることを考えていかなければと思う。 ・文字ばかりではなく、一般の人が分かりやすいイメージ図のような資料が必要。 ・効果的なPRIについて、この地域の木曾ヒノキやレクリエーションの森も対象とした写真コンテストをやったらどうか。 ・生物多様性に加えて、資源の利用や社会との関わりについて、これまでの枠を超えていくということを強調した方がよい。